

写真は六月二十六日の会合の様子



報道「洋画在野団体 態よく肘鉄

文部当局の期待空し」

『東京毎夕新聞』 昭和十一年六月二十六日付

(29)

文部当局が秋の文展のために大いに意気込んで開催した各洋画団体との懇談会は、遂に期待外れで当局は僅かに第二部会、東光会等従来から帝展系の団体が色眼を使っただけで、純在野団体からは態よく肘鉄を喰った。

懇談会は廿六日午前十時から文相官邸で開かれ、当局側は、伊東専門局長、石丸学芸課長、岩井秘書官が出席。民間洋画団体側は、第二部会（辻、太田氏）、東光会（熊岡、斎藤氏）、主線協会（高間、橋本氏）、春陽会（木村、足立氏）の四団体八氏が出席して、今秋の文展問題を中心に意見を交した。結果、純在野の唯一の出席者たる春陽会の木村莊八氏は文展不開催を主張して参加を拒絶し、結局洋画に関する限り文展は旧帝展系だけで開く外ないとなった。